ラグビーを楽しむ（誕生とルールの流れを読む）

先に3つのキーワードを提示しておきましょう。

１．ラグビーは生きている
　生命感・躍動感あふれる競技で、人間のエネルギーと感動によって楽しまれ愛され続ける。

２．プレーが先でルールが後
　生きていることによる感動と発想が競技を進化させていく。

３．The name of the game is ENJOYMENT.
　ラグビーは人間が楽しむことも大切にするスポーツ文化
　誕生もルールも人間性豊かで自由なもの共同の妙味が楽しさを増す
　イングランドの社会・gentleman ship とマッチして普及発展
　all for one, one for all という言葉は、「勝つ」ためだけの姿勢としては言いえても、ラグビーという競技を楽しむ根本理念にはなじまないものと言わざるをえません。

ラグビー誕生から問題を解きほぐしていきましょう。

ラグビー誕生は1823年 Rugby School で football のゲーム中、エリス少年がボールを持って走ったとラグビースクールの記念碑に刻まれています。

Wikipedia より引用
http://en.wikipedia.org/wiki/Image:WWEplaque_700.jpg

1971年 RFU 創立100周年を前に競技規則の調査研究委員会が設けられ鋭意努力されましたが、確たる証拠なしという報告がなされました。しかし、総合的に討論の末、全会一致で歴史的事実として認め、競技の拠としていくことがきまりました。1870年に一芸術家が描いた絵が情景や雰囲気を表すものとして宝物として大切にすることになりました。

生命の躍動と自由な発想から始まった競技であるということです。そして、そのエネルギーと精神を受け継ぎ育て楽しもうというものです。

それから、現代ラグビーへの画期的改革を遂げる。

1960～1970年代にかけてラグビーは伝統的競技から、新しい感覚の躍動的な競技に進化をとげました。グローバリゼーションは急速に進みW杯が始まり、プロ化はルールブックから削除され、当然のこととして加速しました。フルタイム有給の技術顧問やコーチが普通のこととなり、彼等とプレヤーの遠征費だけでなくその間の生活保障も当然のこととなりました。

指導法とフイットネスの急速な向上は、プレーそのものや作戦の変化となってきました。6ヶ国大会と遠征だけでなく、世界各地域の大会が活発になりました。プレーは連続とスピードの追求が加速し、ダイナミックな感動的競技になりました。

そして、ルール改定

1960年頃のラグビーに対する意識の変化はプレーを一変させました。プレーの連続とスピーディであることへ急速に発展していきました。ルールも並行して発展を促進してきました。20世紀末のミレニアム改革整理の流れは、反省の上にたって新たな方向をうちだし研究と試行をはじめています。ルール改定の流れは次のように進みます。

a:問題事象（発想・事故）→　b:課題提起・議論→　c:試行→　d:成熟→　e:実験的施行→　f:ルール改正

普通の原則的な流れである a～f の過程を、短くは 2 年長くは 10 年のスパンで進行するものです。ラグビー誕生は特筆すべきａ光輝ある反則といわれるものです。その他数々の case law や local rule が含まれます。日本では a～d の過程がなく突然に外国から入ってくるものですから、とまどいがあり流れから遅れてしまうこともあるのです。また、a～d 過程における反省と思索がなく工夫もなく取り入れるものですから、知識の不足に加えて、心の成長と準備の有無はプレーに影響し、競技を楽しむことにマイナスの影響が大きいのです。世界では新しいラグビーの c：試行の前段であるモデル試行が行われているときいています。

キーワードにもどりましょう。
私どもが目にする試合は、本当に楽しむことから程遠い感じがします。激しくぶつかり合い勝ち負けだけで一喜一憂し、ラグビーが勝敗を争うだけの道具にすぎないものになってしまっています。もっと中身の豊かな楽しいものにすることが大切で、その努力と成果に勝利が付いてくるものです。

2006.05.07
西川　義行